

同友しずおか

2018

8

VOL.477



私の逸品

(株) 祇園

伊豆と言えば
(株)祇園の「いなり寿し」



静岡県中小企業家同友会

中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社を作ろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。



2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。



3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

平成30年度 重点課題

- I. 経営指針成文化の環境整備を進め、労使見解に基づく人を生かす経営の実践企業を増やします
- II. 中小企業振興基本条例運動を推進し、県・市町の行政・金融・関係機関との連携を強化し地域づくりをめざします
- III. 2020年ビジョン3年目にあたり、早期に1200名会員を達成し、支部のさらなる活性をはかります

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1084 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
ひらの 平野 さとる 聖	ナルトレーディング 貿易 (新・中古ボート、タンカー、漁船、車、重機、フォークリフト、その他外国へ運送)	富士宮	朝日 康典
わらしな 薫科 あきもと 顕本	(株)山清 とび・土工工事業、産業廃棄物収集運搬業 (植栽土・グラウンド材・砂利の製造販売、土地造成工事、残土処分、一般貨物自動車運送業)	富士宮	簗 威頼
かとう 加藤 けんすけ 健介	特定非営利活動法人 ポトラッチ 就労継続支援B型事業所 (障がい者の就労に向けた支援 (社会人としてのマナー、内職を通じた仕事に対する訓練))	榛原	野川 和三

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。



伊豆と言えば (株)祇園の「いなり寿し」

(株)祇園 (伊東支部)

代表取締役 守谷 匡司氏



守谷匡司氏

創業72年の老舗駅弁屋

守谷匡司氏が代表取締役を務める(株)祇園。1946年に守谷氏の祖父が、いなり寿し専門店として創業しました。その後、1949年に(株)祇園として法人化以降、伊東駅への出店、駅そばの開始、普通弁当の発売なども行ってきました。守谷氏は1999年に同社へ入社。当時の会社は、実質上経営者がいない状態でただ運営しているという、今考えてみると恐ろしい状態だったとのこと。2001年に道の駅伊東マリンタウンへ出店と新たな展開をしていくなかで、2010年に5代目社長に

就任。会社の仕組みが時代に合っていないことに気付き、まずは事業の再生に取り組みしました。

地域と商品が一体となるような企業づくりを目指す

(株)祇園は経営理念の中で「私達は伊豆を代表するローカル・ブランドとして『おいしいもの』『品質の良い安全な商品』を提供します」と掲げています。

この理念について守谷氏は「『伊豆と言えば(株)祇園のいなり寿し』と言われるくらい、地域と商品が一体となるようにしていきたい」と話します。今回の表紙になっている「いなり寿し」は、創業当初からの看板メニューです。これは、創業者の義母の実家が稲荷神社というところがきっかけでした。戦後のま

ともに食べる物が無いような時代に美味しい物を提供したいという思いで、白米と砂糖をたっぷり使った甘く濃い味のいなり寿しができました。原材料の高騰など、様々な外部環境の変化の中でも、素材には良い物を使用し、多くのお客様に喜んで



懐かしさと美味しさにこだわり抜いたお弁当

らせるように美味しさにこだわって作っています。「時代を超えた普遍的な美味しさ。シンプルだけど奥深い。そんな商品づくりを続けていきたい」と守谷氏は話してくれました。

社員の成長が会社の成長に繋がる

現在、伊東市内に4店舗を展開しています。守谷氏は「それぞれの店舗で安定的に利益を出し、お客様だけではなく、働く社員の会社や仕事に対する満足度も高めていきたい」と語ります。守谷氏は2014年9月に同友会に入会後、自社の状況をオープンにし、社員とコミュニ

ケーションを取り、会社としての方向性を明確にしていきました。そのような地盤作りの上に、同友会での学びや、そこで得た他社の取り組みなどを生かしています。「会社の質を高めることで、より良い商品をお客様に提供できる」と語る守谷氏、伝統の味を守りながら社員とお客様の幸せを追求し続けます。

取材・記事：鈴木将大氏

(南東亜電気工業・伊東支部)

(株)祇園

〒414-0038 伊東市広野1-2-15

TEL：0557-37-3366

HP：http://gionzushi.jp

創業 1946年

社員数 正規5名 パート16名

入会年月 2014年9月

事業内容 お弁当 製造 販売

愛する人を見送る心に寄り添って400年

(有)佐藤葬具店
代表取締役 佐藤 浩美氏 (三島支部)



佐藤浩美氏 (右)

三島広小路駅から徒歩3分、近郊の賑わいのすぐそばに(有)佐藤葬具店があります。その経営者であり、同友会歴7年目となる佐藤浩美氏を訪問しました。同社の歴史は古く、起源は寛永元年(1624年)にまで遡ります。当時の宮大工はその技術から、棺桶や仏具を造るなどの仕事を任されていた、おそらくその流れから、今の葬儀社という職業に移っていったものと考えられています。

さて、店舗の看板(外観写真)には歴史の重みが伝わってくる「佐藤造花店」の文字。何故、葬儀社なのに「造花店」なのか?かつては葬儀社では祝いの花輪なども扱っていたため、同業者の多くが「造花店」と名乗っていたそうです。

「縁でいんぐノート」の想いと、店舗改装

2017年11月に店舗を改装し心機一転、忙しい日々を送る佐藤氏。一般的に葬儀というと、重苦しい雰囲気や見えにくい料金なども相まって「大事なことではあるが、なかなか相談などに踏み込めない」と思う方が多いそうです。そんなイメージを払しょくし、もっと気軽にお客様に遊びに来ていただきたい、萬処でありたいという思いから、木のぬくもりを基調とした店舗に改装しました。佐藤氏が発案した、「縁でいんぐノート」も、その考え方にリンクしたものです。形式に囚われることなく「本当はどんな葬儀をしたいか」を見える化することで、お客様の



(有)佐藤葬具店 (店舗外観)

葬儀に対する思いが明確になってくる仕組みです。「お客様の理想の葬儀を実現したい、お客様との縁を大事にしたい、葬儀を考えることで同時にご自分やご家族、御身内を振り返り一層大切にしたい」という佐藤氏の想いが、「縁でいんぐノート」という形になりました。

自身のつらい体験と
良い葬儀への思い

「送ってもらった側もそうだが、送る側が後悔せずに、満足した式を行うことが最も大事」と言う佐藤氏は、自身もつらい思いの中で社長を引き継いでいます。20歳の時に当時の社長であるお父様を亡くされ、その後を引き継いだお姉様は、44歳の若さでこの世を後にしました。その間にお母様も亡くされていて「仲の良かった大切な家族のつらい旅立ちを経験したからこそ、お客様に信頼され、寄り添えるようになったのかもしれない」と佐藤氏は語ります。

お客様との信頼関係があるからこそ、葬儀が終わってもお店に立ち寄ってくれたり「佐藤さんに頼んで良かった」と言ってくれたりするお客様が以前にも増して増えている、とのこと。「この言葉を聞くことが、この仕事をやっていて良かったと思える瞬間だ」と佐藤氏は言います。お話を聞いていても、相当つらかっただろうと思えますが、それを経験にしてより一層お客様との縁を繋いでいく、佐藤氏の人間としての強さ、そして経営者としての力強さを感じました。同友会で学んでいる時とはまた違った佐藤氏の一面を見た気がします。私自身も「送り、送られ」という瞬間は必ずやってくるので、考えてみようと思う時間になりました。

取材・記事：山下直毅氏

(株)サンアイ電工・三島支部

取材：秋山敦氏

(株)秋山建設・三島支部

(有)佐藤葬具店

〒411-0847 三島市西本町1-27

TEL：055-975-1693

創業 1624年

社員数 正規10名 パート数名

入会年月 2012年4月

事業内容 葬儀施工、仏壇、仏具の販売
小売

つなぐことのお手伝い：家・家族・職人技
そして日本らしさ

(株)育暮家ハイホームス
代表取締役 寺坂 磨氏 (志太支部)



クーラー不要のオフィスに看板を設置する寺坂磨氏(右)とスタッフの皆さん

30度を超える暑さの中、育暮家ハイホームスさんへの訪問。田園を通り抜けた風と傍らの扇風機ひとつでも汗が自然に引いていくクーラー不要のオフィスでの取材が始まりました。

創業から事業承継へ
バトンは確かに託された

寺坂磨氏が経営する育暮家ハイホームスは現在34期目。先代の杉村喜美雄氏が、住宅リフォーム業として創業しました。創業4年目頃には新築住宅の分野にも参入。「日本の原風景を残したい」「古民家の再生にも関わりたい」「近くの山の木を家づくりに活かしたい」こんな創業者の想いが経営理念となつて、様々な活動を具体化してきました。

寺坂氏は先代から平成30年にバトンタッチした2代目です。先代の杉村氏の娘さんと結婚した当時は、自動車部品を製造する会社で管理職になろうとしていました。杉村氏は、自身の想いのつまった事業を誰に託そうかとずいぶん悩んだそうです。ある日、娘さんの家で事業承継の話を出した時、寺坂氏が身を乗り出して来た時はビックリしたとのこと。杉村氏が師と仰ぐ、石川同友会の喜多計世氏(喜多ハウジング(株)取締役会長)に挨拶に伺った時、喜多氏から「二人きりになっても信念を貫け」と励ましていただいた寺坂氏は、創業者の想いの詰まった経営指針を引き継ぐことに。同時に、先代と入れ替わる形で同友会に入会しました。



寺坂磨氏(中央)と志太支部取材陣

2代目としての同友会
創業者との約束

「入会後は、同友会メンバーの経営にかける想いの強さに圧倒されて気後れるばかりでした」と語る寺坂氏。激務がたたり体調を崩したことも重なり、次第に同友会活動から遠ざかっていきます。しかし代表取締役を任せられた今年、創業者とある約束をします。「数年後、同友会の例会で事業承継について寺坂氏に話してもらいたい」というオファーがくるような事業承継をしよう。それをひとつの目標にしよう」と。この約束を果たすため、同友会活動のギアを入れ直そうと思ったタイミングがこの取材と重なったわけです。

差別化から独自化へ

人間としての付加価値を高める取り組み
寺坂氏は現在、人口減や少子高

齡社会、エネルギー問題、職人問題など、多様化する住宅を取り巻く課題に一つ一つ答えを出していくこととしています。また、経営革新を取り「わが家の省エネ手帳」というアプリを作成し「暮らしづくり」にも取り組んでいます。目指すは「差別化から独自化へ」。それを徹底的に極めていくために社員との価値観の共有は必要不可欠です。価値観を共有しながら、社長や社員の人間としての付加価値を高めていけるような経営を実践したい、と力強く話してくれました。

取材・記事 村松繁氏
(保険アイマーク(株)・志太支部)

取材 吉田 和弘氏
(吉田道明税理士事務所・志太支部)

寺田 卓正氏

(株)ニューウェーブ・志太支部

(株)育暮家ハイホームス

〒426-0063 藤枝市青南町2-8-7
TEL : 054-636-6611
URL : <https://hihomes.co.jp/>

設立 1985年
社員数 正規7名、パート1名
入会年月 2014年6月
事業内容 住宅の新築・リフォーム

中同協第50回定時総会 in宮城 開催

7月5日(木)・6日(金) 仙台市 江陽グランドホテル

7月5～6日、中同協第50回定時総会が仙台の江陽グランドホテルを主会場に開催され、全47同友会から1312名(来賓含む)、静岡から22名が参加しました。「中同協50周年5万名へ」同友会らしい企業づくりの輪を広げ、日本と地域の未来を拓こう!」をスローガンに、2019年中同協設立50周年のキックオフ総会と位置付けられ、16分科会と全体会の鼎談などが行われました。

1日目は、全体会で議案や予決算などが提案された後、「歴史と理念」や「会員増強」のキックオフ記念分科会、「労使の自主的・自律的な『働き方改革』」などの企業経営や情勢、中小企業振興基本



新役員代表の挨拶をする広浜泰久 中同協会長

業振興基本条例、金融問題などの16分科会で議案を審議し、方針の実践に向けて交流しました。2日目の



鼎談の様子

全体会では議案のほか、日本中小企業家同友会創立から60年を振り返り、同友会の理念や歴史への確信を深めた総会宣言が満場の拍手を以て採択されました。また、まとめに立った中山英敬・中同協幹事長は、議案への意見で出されたSDGs(国連・持続可能な開発目標)の学習とともに「日本や地域を変えていくためには社員の自主性が発揮され成長していく同友会らしい企業を増やすしかない。同友会の歴史

を学び理念に革新と誇りを持って運動を広げていこう」と呼び掛けました。また、広浜泰久・中同協会長は「先人の作り上げた理念と実績をもとに、一人ひとりのよさを発揮できる社会へ向け、中小企業としての使命を担うこと」を強調しました。

その後、鼎談が行われ、中同協設立時の初代幹事長であった田山謙堂・中同協顧問、前史からの歩みをまとめた中同協企業環境研究センター顧問の大林弘道・神奈川大学名誉教授、「50年史」編纂を担当する国吉昌晴・中同協顧問が報告。同友会創立前史からの自主・自立の精神で培われた同友会理念の形成過程と「中小企業における労使関係の見解」発表までの経緯を、時代背景と共にそれぞれが報告し「同友会の歴史



静岡からの出席者の皆様

史や理念がいよいよと伝わってきた」「同友会運動に確信を持った」など積極的な感想が聞かれました。最後に閉会挨拶に立った次回開催地である東京同友会の三宅一男代表理事は「次回は中同協設立50周年の記念すべき総会。新たな半世紀を展望する総会にぜひご参加を」と東京での再会を呼びかけました。

分科会での学び

〔中同協設立50周年へ〕

第2分科会

同友会の歴史と理念

同友会運動の歴史と理念に学び、未来を展望する

広浜 泰久氏 (株)ヒロハマ代表取締役会長 / 中同協会長
佐藤 元一氏 (株)佐元工務店代表取締役会長 / 宮城同友会相談役



遠藤 健正氏

広浜泰久氏と佐藤元一氏の両名による報告をもとに、同友会理念をどのように生かしていくか討論

が行われました。広浜氏による同友会運動と理念形成の歴史の報告により、同友会で言われる一つひとつの言葉の本当の意味に触れたような気がします。それによって言葉が文字通り心に届き、自らの血肉にしていきたい、実践していきたいと感じました。佐藤氏は「自主・民主・連帯の精神」をそれぞれ「自由・平等・博愛」に置き換え、それを経営の中に取り入れつつ、社員と共に育ってきた実践を報告しました。それぞれの報告から、「共に生きる」という課題を社員と如何に共有していくか、という私自身にとっての新たなテーマを得ることができました。

これまでは「自分、自社のための学び」という姿勢で臨んでいた同友会活動も、やはり「社員と地域のための学び」として考え、実践していかなければならないのだと感じ、またそれに取り組む経営者を目指したいと決意を新たにしました。

遠藤 健正氏 (南大橋商事・中遠支部)

第6分科会

働く人が主役の会社を目指して！

価値観の異なる人が集まるからこそ人は成長する

田中 勉氏 (株)エイチ・エス・エー代表取締役 / 神奈川同友会副代表理事



望月 宣典氏

田中勉氏が経営する(株)エイチ・エス・エーでは、入社判定を先着順で行っていません。なぜこんなこ

とができるのか。それは「社員を幸せにしたい、地域を幸せにしたい」この熱い思いの下で、経営者がしっかりとビジョンを示し、経営指針(会社の憲法)に基づいた仕組みを作り上げ実践しているからです。入社志望者は、職場見学を行い、経営指針をしっかりと理解したうえで応募してきます。だから、「この会社で働きたい」という意思を尊重し、公平性を確保するために先着順としているのです。

会社は社会の縮図です。経営指針という憲法に基づいた立憲民主主義です。また、会社は様々な価値観の人たちの集合です。民主主義は非効率な仕組みですが、その多様性の中で他者を理解しようとする姿勢が、社員と会社の成長をもたらします。同社では、9回失敗しても9回うまくいかない方法を学んだ、という考え方を社内でも共有し、「できない」ではなく「挑戦者」になることを行動の規範としています。

私も、しっかりと社員さんたちが将来の自分の姿を思い描け、そして会社が成長し自分も幸せになれる10年ビジョンを社員さんと共にもう一度考えます。そして経営指針に基づいた経営で、来期第50期は1000年企業をめざす会社づくりを始めます。

望月 宣典氏 (清水クレジット(株)・静岡支部)

第9分科会

山と海をつなぐワイン

震災後の産業創出と交流人口拡大の新たな価値づくり

毛利 親房氏 (株)仙台秋保醸造所代表取締役 / 宮城同友会
後藤 清広氏 (宮城県漁業協同組合志津川支所 徳倉出張所力キ部会部会長) / 宮城同友会



原山 雅光氏

震災当時、毛利親房氏は設計事務所の社員でした。被災した建物の調査をしているうちに、地域の復興に奔走している人とのつながりが増え、ワイナリーを創業。ワインを通して地元食材のPRを考えるようになります。漁師の後藤清広氏は、カキ養殖のいかだを作りすぎたことによる育成不良や品質の低下、コストの上昇などの問題に悩まされていきました。そんな中で震災が起これば、一晩で地域がなくなりました。逆境の中、後藤氏は持続可能な漁業を目指し、自分だけでなく皆の利益を考えて活動しました。最初は漁師間の協力が得られず、組合員の反対に合いました。それでも活動を続け、結果として「責任ある養殖場」の証であるASC認証を取得。現在の売上は震災前の15倍となりました。このような2人が出会い、ワインとカキというマリアージュが生まれます。

さて、弊社は機械・工具の販売会社です。業界ではBCPが何度も話題になり、セミナーも開催しました。災害時には「必要な商品が必要な所に届け、工場を稼働させる」これが基本です。地域の利益は会社の利益と考えると経営をしていけば、皆がWIN-WINになります。

ちなみにお二人とも、悩んで「もうやめようか」と思った時、奥さんからの一言が大きくなえ、転機になったそうです。家族の絆が、地域の絆につながっていくことを強く感じました。

原山 雅光氏 (株)原山・静岡支部)

第10分科会

白石中小企業振興基本条例の活用と実践

中小企業の視点から地域課題の解決を目指す

山田 裕一氏 (宮城県白石市長) / 佐々木 文彦氏 (南アトリエエリス代表取締役) / 宮城同友会白石蔵王地区理事



桑崎 雅人氏

賑わい交流拠点施設「しろいしSun Park」を会場に、山田裕一白石市長と佐々木文彦氏が報告

する見学分科会でした。白石市中小企業振興基本条例(平成26年4月1日施行)の制定と同時に、同友会メンバーが中心となって地方創生戦略会議を開催し、国から地方創生補助金3億円を獲得。その補助金で、市長を中心に行政主導で地域住民の交流施設である「しろいしSun Park」を建設しました。その施設を同友会メンバーが主体となって活用し「食」という観点から地元食材を利用した六次産業事業化を推進している、という報告でした。

この分科会で再認識したことは、地方都市における中小企業振興条例制定の重要性です。行政は条例がなければ行動できません。裏を返せば、条例が出来ることで行政が事業を応援できるようになります。条例は目的ではなく手段です。条例を制定しただけで満足してしまう地方都市が多く見受けられますが、もう一歩踏み込むことで行政を巻き込んで条例を地方創生まで落とし込むことが出来るという事実があります。そして、地域と行政にあてにされる同友会型企業づくりが、地域の抱える課題を解決できると実感しました。

桑崎 雅人氏 (南島村歯車製作所・沼津支部)

新静岡支部設立10周年記念式典

～新たな10年に向け、学びと交流を深める～

7月21日(土) ホテルセンチュリー静岡



当日は静岡支部会員をはじめ、総勢120名の皆様にご参加いただきました。式典内では「10年の歩み」のビデオを上映し、4名の歴代支部長の当時の想いに触れました。また、グループ討論では、自社や地域をよくするために同友会での学びをどのように実践していくのか、自社経営と同友会活動をいかに結び付けて考えているか、ベテラン会員も若手会員も同じ目線で学び合う良い機会となりました。旧清水支部と旧静岡支部が合併してから10年が経ち、新たな10年に向けてのスタートとなりました。

山田 勝幸氏 (㈲マルミ海産物・静岡支部)

障がい者問題委員会

3ヵ月にわたり関係機関との意見交換会を実施



島田で行われた意見交換会の様子

障がい者問題委員会主催の、会員企業と関係機関との意見交換会が5月から7月にかけて東・中・西部で開催されました。障がい者理解・障がい者就労の推進、就労困難者の支援を方針として掲げ活動を行っており、その一環として例年、行政の担当者や特別支援学校教諭の方々をお呼びして意見交換会を行っています。今回は「障がい者とのどのように関わっていますか？」をテーマにグループ討論を行い、お互いの悩みについてそれぞれの立場から意見を述べ合いました。人手不足が加速する中、障がい者一人ひとりの特徴を理解し「人を生かす」経営を行うことが大切だと共有できた、有意義な意見交換会となりました。

8月・9月

DOYU CALENDAR

8月16日(木)～9月15日(土)

8月 21日(火)	青年部 (19:00 同友会事務局) 政策委員会 (19:00 同友会事務局) 広報情報化委員会 (19:00 同友会事務局) 組織増強委員会 (19:00 同友会事務局) 例会企画委員会 (19:00 同友会事務局) 沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ) 浜松例会 (納涼+イントロセミナー) (19:00 COMMONS (コモンズ・アクトシティ浜松))
22日(水)	障がい者問題委員会 (19:00 同友会事務局) 共有委員会 (19:00 同友会事務局)
23日(木)	富士例会 (19:00 富士交流センター) 榛原例会 (18:45 コミュニティホールきてご榛原) 中遠納涼例会 (19:00 蔵yoshi)
24日(金)	会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会と私」 (19:00 同友会事務局)
25日(土)	静岡共学ゼミ (14:00 かまくら文庫)
27日(月)	経営指針を創る会⑥ (19:00 同友会事務局)

28日(火)	(納涼) 共同求人委員会 (19:00 静岡駅周辺)
29日(水)	理事会 (17:00 同友会事務局)
31日(金)	伊東納涼例会 (19:00 未定)
9月 8日(土)	同友会大学① (13:30 同友会事務局)
9日(日)	富士同友会まつり (10:00 富士市中央公園)
10日(月)	正副代表理事会 (17:00 同友会事務局)
11日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
12日(水)	経営指針を創る会⑦ (19:00 同友会事務局) 御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア)
13日(木)～ 14日(金)	人を生かす経営全国交流会in宮崎 (13:00 宮崎観光ホテル)
14日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川バイパス店)
15日(土)	榛原支部 研修旅行 (19:00 東京方面)

《あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください》



静岡同友会
Facebookページ



静岡同友会Facebookページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください！